

教育・研究業績書

講座名 形成外科学		
＜教員の紹介＞		
教授 朝戸裕貴 准教授 鈴木康俊		
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月	概要
① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）		
第3学年における講義	2006年5月～現在	一般外科学のうちの1コマを用いて「形成外科学概論」の講義を行っている。授業では実際の症例写真を多く取り入れている。
第5学年におけるBSL実習	2007年5月～現在	BSL実習では手術や処置の介助、糸結びや縫合の練習、X線写真読影実習など、学生が積極的に参加できる内容で行っている。
初期臨床研修医に対する指導	2008年4月～現在	外科系研修として形成外科を選択する臨床研修医に対して、一般外科的な必要事項を中心とした研修プログラムに基づいた指導を行っている。
大学院学生に対する指導	2008年4月～現在	形成再建外科学に関する学会発表や論文作成に関する指導、および特定のテーマに沿った具体的な研究進行について指導している（在籍1名）。
レジデントおよび若手医師に対する指導	2006年4月～現在	日本形成外科学会認定形成外科専門医取得に必要な症例の手術経験および論文作成について、毎朝のカンファレンスを通じて指導している。
② 作成した教科書、教材、参考書		
単行本「小耳症・外耳道閉鎖症に対する機能と形態の再建」の編集	2008年4月～2009年3月（2009年5月刊行）	日本では当大学病院でのみ日常的に行われている、小耳症に対する形成外科・耳鼻咽喉科の同時共同手術について、その原理と手術術式を中心に全国の形成外科医および耳鼻咽喉科医を対象とした教科書を作成した。
パンフレット「症例から見る難治性疾患の診断と治療－16. 耳介の先天異常と小耳症」の作成	2008年8月	小耳症に対する診断と治療について、12ページの冊子を作成した。この冊子は全国の耳鼻咽喉科医に配布された。

③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項

1) 第 49 回日本形成外科学会総会・学術集会 教育講演 「顔面神経麻痺の形成手術」	2006 年 4 月	岡山における第 49 回日本形成外科学会総会・学術集会において、顔面神経麻痺の形成手術に関する講演を行った。
2) 第 25 回兵庫県形成外科医会研究会 特別講演 「小耳症に対する耳介形成術の方針と手術術式のポイント」	2006 年 5 月	神戸における第 25 回兵庫県形成外科医会研究会において、小耳症に対する耳介形成術の方針と手術術式のポイントに関する講演を行った
3) 久留米大学形成外科・顎顔面外科学講座第 7 回同門会総会 特別講演 「小耳症に対する耳介形成術－われわれの考え方と手術術式について－」	2007 年 1 月	久留米における久留米大学形成外科・顎顔面外科学講座第 7 回同門会総会において、小耳症に対する耳介形成術に関する講演を行った。
4) 第 11 回千葉頭頸部腫瘍研究会 特別講演 「頭頸部再建における pitfall とその対策」	2007 年 2 月	千葉における第 11 回千葉頭頸部腫瘍研究会において、頭頸部再建における pitfall とその対策に関する講演を行った。
5) 第 19 回川崎医科大学形成外科学教室同門会 特別講演 「小耳症に対する耳介形成術－われわれの考え方と手術術式について－」	2007 年 5 月	岡山における第 19 回川崎医科大学形成外科学教室同門会において、小耳症に対する耳介形成術に関する講演を行った。
6) 第 4 回栃木県歯科口腔外科研究会 特別講演 「遊離組織移植による口腔・顎・顔面領域の再建外科」	2007 年 6 月	宇都宮における第 4 回栃木県歯科口腔外科研究会において、遊離組織移植による口腔・顎・顔面領域の再建外科に関する講演を行った。
7) 第 19 回水戸創傷治癒談話会 特別講演 「一般外科診療における形成外科の役割」	2007 年 12 月	水戸における第 19 回水戸創傷治癒談話会において、一般外科診療における形成外科の役割に関する講演を行った。
8) 第 22 回栃木県更年期研究会 特別講演 「産科婦人科領域における形成外科の役割とアンチエイジング」	2008 年 12 月	宇都宮における第 22 回栃木県更年期研究会において、産科婦人科領域における形成外科の役割とアンチエイジングに関する講演を行った。
9) 日耳鼻埼玉県地方部会・埼玉県耳鼻咽喉科医会学術集会 特別講演 「顔面神経麻痺と小耳症の形成外科的治療」	2009 年 2 月	さいたま市における日耳鼻埼玉県地方部会において、顔面神経麻痺と小耳症の形成外科的治療に関する講演を行った。
第 4 学年「医学英語Ⅳ」 科目責任者	2008 年 4 月～現在	同科目の責任者として統括的指導を行っている。
第 4 学年 I クラス 学年担任	2009 年 4 月～現在	第 4 学年 54 名の担任として指導を行っている。
国際医療福祉大学非常勤講師	2009 年 4 月～現在	同大学大田原キャンパス言語聴覚学科において、「形成外科学」講義を担当している。

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
形成外科学	教授	朝戸 裕貴	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1984年6月～現在	日本形成外科学会 正会員		
1985年6月～現在	日本外科学会 正会員		
1987年11月～現在	日本マイクロサージャリー学会 正会員		
1987年10月～現在	日本気管食道科学会 正会員		
1987年10月～現在	日本頭頸部腫瘍学会（現 日本頭頸部癌学会） 正会員		
1987年11月～現在	日本頭蓋顎顔面外科学会 正会員		
1990年4月～現在	国際形成外科学会 正会員		
1991年5月～現在	日本顔面神経研究会 正会員		
1994年10月～現在	日本コンピュータ支援外科学会（現日本シミュレーション外科学会） 正会員		
1995年2月～現在	日本形成外科学会 評議員（現在継続中）		
1996年4月～現在	国際マイクロサージャリー学会 active member		
1997年5月～現在	日本熱傷学会 正会員		
1997年6月～現在	日本外科系連合学会 正会員		
1997年2月～現在	形成外科内視鏡手術研究会（現 形成外科手術手技研究会） 正会員		
1998年6月～現在	日本頭蓋底外科学会 正会員		
1998年11月～現在	日本マイクロサージャリー学会 評議員（現在継続中）		
1998年11月～現在	日本頭蓋顎顔面外科学会 評議員（現在継続中）		
1998年11月～現在	日本気管食道科学会 評議員（現在継続中）		
1999年5月～現在	日本血管外科学会 正会員		
1999年10月～現在	日本美容外科学会 正会員		
2000年4月～現在	日本顔学会 正会員		
2001年4月～現在	日本気管食道科学会 認定医通信（現 専門医通信）編集委員会委員（現在継続中）		
2002年11月～現在	日本シミュレーション外科学会 理事 評議員（現在継続中）		
2004年11月～現在	日本マイクロサージャリー学会 会誌編集委員会委員（現在継続中）		
2005年7月～2007年6月	日本形成外科学会 国際医療協力委員会委員		
2006年11月～現在	日本気管食道科学会 理事（現在継続中）		
2006年6月～現在	日本顔面神経研究会 運営委員（現在継続中）		
2006年9月～2009年6月	日本形成外科学会 専門医認定委員会委員（現在継続中）		
2006年12月～現在	日本創傷治癒学会 正会員		
2007年2月～現在	日本口蓋裂学会 正会員		
2007年3月～現在	形成外科手術手技研究会 理事（現在継続中）		
2007年6月～2007年12月	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員		
2007年7月～2009年6月	日本形成外科学会 選挙制度検討委員会委員（現在継続中）		
2007年7月～現在	日本気管食道科学会 倫理委員会委員（現在継続中）		
2007年7月～現在	日本顔面神経研究会 常任運営委員（現在継続中）		
2008年6月～2008年12月	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員		
2008年7月～現在	日本頭蓋底外科学会 評議員		
2008年8月～現在	日本創傷外科学会 理事 評議員 正会員		

2009年4月～現在	日本乳癌学会 正会員
2009年6月～現在	日本頭頸部癌学会 評議員
2009年7月～現在	日本形成外科学会 専門医統括会議委員
2009年7月～現在	日本形成外科学会 認定施設認定委員会委員
2009年7月～現在	日本形成外科学会 将来計画委員会委員
2009年7月～現在	日本形成外科学会 制度検討委員会委員

Ⅲ 研究活動

【学位論文】

【著 書】

欧文

1. Harii K, Asato H, Takushima A: Midface reconstruction, In “Plastic Surgery, (2nd Edn)” (ed. Mathes SJ) Volume III, The Head and Neck(Part 2), pp 859-882, Saunders Elsevier, Philadelphia, 2006.

和文

1. 朝戸裕貴: 顔面神経吻合術. 「脳神経外科手術アトラス下巻」(山浦 晶 編) pp388-395. 医学書院 東京 2005
2. 朝戸裕貴: 顔面各部の損傷. 標準形成外科学第 5 版, 外傷, 特殊部位の治療, 秦維郎, 野崎幹弘編, 医学書院, 東京, pp171-177, 2008.

【原 著】

欧文

1. Okazaki M, Asato H, Sarukawa S, Okochi M: A revised method for pharyngeal reconstruction using free jejunal transfer. Ann Plast Surg 55: 643-647, 2005.
2. Okazaki M, Asato H, Takushima A, Nakatsuka T, Sarukawa S, Inoue K, Harii K, Sugawara Y, Makuuchi M: Hepatic artery reconstruction with double-needle microsuture in living-donor liver transplantation. Liver Transpl 12: 46-50, 2006.
3. Sarukawa S, Asato H, Okazaki M, Nakatsuka T, Takushima A, Harii K: Clinical evaluation and morbidity of 201 free jejunal transfers for oesophagopharyngeal reconstruction during the 20 years 1984-2003. Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 40: 148-152, 2006.
4. Yamaoka H, Asato H, Ogasawara T, Nishizawa S, Takahashi T, Nakatsuka T, Koshima I, Nakamura K, Kawaguchi H, Chung UI, Takato T, Hoshi K: Cartilage tissue engineering using human auricular chondrocytes embedded in different hydrogel materials. J Biomed Mater Res A 78: 1-11, 2006.
5. Okazaki M, Asato H, Takushima A, Sarukawa S, Nakatsuka T, Yamada A, Harii K: Analysis of salvage treatments following the failure of free flap transfer caused by vascular thrombosis in reconstruction for head and neck cancer. Plast Reconstr Surg 119: 1223-32, 2007.

和文

1. 朝戸裕貴、鈴木康俊、菅 浩隆、岡崎 睦、多久嶋亮彦、波利井清紀: 上顎癌切除後の二次変形の治療－再建材の選択－. 形成外科 50: 877-885, 2007.
2. 朝戸裕貴、鈴木康俊、加我君孝、竹腰英樹、加地展之、三苦葉子: 小耳症手術に対する最近の工夫. 形成外科 51: 755-764, 2008.

3. 朝戸裕貴, 鈴木康俊: 生体肝移植術における肝動脈再建—吻合手技の工夫—. 形成外科 52: 769-773, 2009.

【症例報告】

欧文

1. Suga H, Asato H, Okazaki M, Okochi M, Narushima M: Combination of costal cartilage graft and rib-latissimus dorsi flap: a new strategy for secondary reconstruction of the maxilla. J Craniofac Surg 18: 639-642, 2007.

和文

1. 岡崎 睦, 朝戸裕貴, 大河内真之, 菅 浩隆: 高リスク患者における双茎遊離空腸移植の経験. 日本マイクロサージャリー学会会誌 20: 85-91, 2007.

【総 説】

和文

1. 朝戸裕貴: 顔面特殊部位損傷の処置—顔面神経—. 形成外科 47: S54-S58, 2004.
2. 朝戸裕貴, 加地展之, 三苫葉子, 加我君孝: 小耳症に対する耳介・外耳道形成手術. JOHNS 20: 1043-1046, 2004.
3. 朝戸裕貴: 耳下腺手術後の顔面神経麻痺. JOHNS 23: 1121-1123, 2007.
4. 朝戸裕貴: 遊離広背筋移植術を中心とした顔面神経麻痺に対する形成手術. Facial N Res 28: 11-13, 2008.
5. 朝戸裕貴: 耳介奇形, 小耳症に対する形成手術. JOHNS 25: 81-84, 2009.

【そ の 他】

和文

1. 朝戸裕貴: 随想 形成外科がメジャーになる日. 形成外科 50: 1, 2007.
2. 朝戸裕貴, 加我君孝: 耳介の先天異常と小耳症 - 症例から見る難治性疾患の診断と治療 耳鼻咽喉科編 16, 国際医学出版, 2008.

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
形成外科学	准教授	鈴木 康俊	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1989年4月～	日本形成外科学会員		
1991年4月～	日本マイクロサージャリー学会員		
2004年4月～	日本顔面神経研究会員		
2004年9月～	日本褥瘡学会員		
2008年8月～	日本創傷外科学会員		
2008年10月～	日本気管食道科学会員		
2008年10月～	日本頭蓋顎顔面外科学会員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. 鈴木康俊：形状の分類（耳介・外耳道）．小耳症・外耳道閉鎖症に対する機能と形態の再建，朝戸裕貴，加我君孝編，17-19，金原出版，東京，2009．			
【原 著】			
欧文			
1. Tachi M, Hirabayashi S, Yonehara Y, <u>Suzuki Y</u> , Pilip B: Development of an experimental model of infected skin ulcer. Int Wound J 1: 49-55, 2004.			
2. Kajikawa A, Ueda K, <u>Suzuki Y</u> , Ohkouchi M: A new umbilicoplasty for children: creating a longitudinal deep umbilical depression. Br J Plast Surg 57: 741-748, 2004.			
3. Okazaki M, <u>Suzuki Y</u> , Yoshimura K, Harii K: Construction of pigmented skin equivalent and its application to the study of congenital disorders of pigmentation. Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 39: 339-343, 2005.			
4. Okazaki M, Yoshimura K, Uchida G, <u>Suzuki Y</u> , Kitano Y, Harii K: Epidermal hyperpigmentation in non-syndromic solitary cafe-au-lait macules may be associated with increased secretion of endothelin-1 by lesional keratinocytes. Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 39: 213-217, 2005.			
5. Ueda K, Kajikawa A, <u>Suzuki Y</u> , Okazaki M, Nakagawa M, Iida S: Blood gas analysis of the jejunum in the supercharge technique: To what degree does circulation improve. Plast Reconstr Surg 119: 1745-1750, 2007.			
6. Ueda K, Kajikawa A, <u>Suzuki Y</u> , Ohkouchi M, Hirose T, Asai E, Tateshita T: Combination of hypoglossal-facial nerve jump graft by end-to-side neurotomy and cross-face nerve graft for the treatment of facial paralysis. J Reconstr Microsurg 23: 181-187, 2007.			
和文			
1. 岡崎睦, 鈴木康俊, 吉村浩太郎, 光嶋勲, 波利井清紀: 皮膚三次元モデルによる上皮・結合組織の相互作用と治療への			

応用. 形成外科 48:963-970, 2005.

2. 上田和毅, 梶川明義, 鈴木康俊, 久富剛, 廣瀬太郎, 浅井笑子, 山口亜沙子, 樺山真紀, 築由一郎:顔面交叉神経移植術とjump graft型舌下神経顔面神経端側縫合術による顔面神経麻痺の再建. 形成外科 49:419-429, 2006.
3. 沖正直, 朝戸裕貴, 鈴木康俊, 内藤崇, 加地展之, 三苦葉子, 加我君孝:小耳症における術前評価としての三次元CTの利用. 日シミュレーション外会誌 15:7-13, 2007.
4. 上田和毅, 梶川明義, 鈴木康俊, 大河内真之, 広瀬太郎, 浅井笑子, 阪場貴夫, 上顎癌切除後の再建と形態の回復 上顎癌切除後の頬部皮膚欠損の二次再建 Tissue expansion法による方法. 形成外科 50:895-903, 2007.
5. 鈴木康俊, 朝戸裕貴, 福田憲翁, 梅川浩平, 沖正直, 倉林孝之, 上田和毅:下口唇麻痺に対して筋切離術を加えた治療の経験. Facial Nerv Res 27:196-198, 2008.
6. 梅川浩平, 朝戸裕貴, 鈴木康俊, 内藤崇, 多久嶋亮彦:側頭骨垂全摘後の顔面神経麻痺に対する形成手術の経験. 日頭顎顔会誌 24:13-19, 2008.
7. 鈴木康俊, 朝戸裕貴:急性創傷治療のアルゴリズム. 形成外科 51:S47-S52, 2008.
8. 沖正直, 朝戸裕貴, 鈴木康俊, 福田憲翁, 梅川浩平, 倉林孝之:当施設における顔面神経麻痺に対する鼻唇溝形成術の工夫. Facial Nerv Res 28:120-123, 2009.

【症例報告】

和文

1. 倉林孝之, 朝戸裕貴, 鈴木康俊, 福田憲翁, 水口敬, 梅川浩平, 沖正直:頬骨弓に発生した骨腫の 1 例. 日本頭蓋顎顔面外科学会誌 25:25-31, 2009.

【総 説】

和文

1. 鈴木康俊, 朝戸裕貴, 損傷部位:形態からみた処置法 特殊型損傷 咬創. 形成外科 49:S189-S192, 2006.
2. 鈴木康俊, 朝戸裕貴:各種ドナー部位における採骨の骨と特性 血管柄付骨移植 腓骨・その他. PEPARS15:18-24, 2007.
3. 鈴木康俊, 朝戸裕貴:顔面片側萎縮症(ロンバーク病)の概要. 医事新報 4382:93-94, 2008.
4. 鈴木康俊, 上田和毅, 廣瀬太郎:手術手技別の切開とアプローチ 鼠径部リンパ節郭清の切開とアプローチ. PEPARS23:141-146, 2008.

【その他】

和文

1. 鈴木康俊, 上田和毅, 梶川明義:培養細胞を用いた皮膚・創傷治癒モデルにおける展望. 第10回ケロイド・肥厚性瘢痕研究会記録集 9-15, メディカルトリビューン, 2004.
2. 鈴木康俊, 朝戸裕貴, 上田和毅:ケロイド・肥厚性瘢痕の治療効果判定における皮膚硬度測定の有用性. 第14回ケロイド・肥厚性瘢痕研究会記録集 86-92, メディカルトリビューン, 2009.